

第3回蘇州大学交流研修訪問団 報告レポート集

研修日程： 2014年9月5日（金）～9月25日（木） 21日間
研修先： 中国 蘇州大学海外教育学院

兵庫県立大学

県立大学にはたくさんの留学生が来ています。その多くは中国からです。彼らはとても親切で僕と普通に話をしてくれます。なのに、テレビを見れば日中関係は悪化するばかり。なぜなんだ？ということがこのプログラムに参加するきっかけでした。

不安も当然あったし、周りの人の心配する声も多く聞かれました。しかし、それ以上にワクワクが大きくて日に日に待ち遠しくなりました。この 3 週間で得たものはものすごく貴重で今後の生活にかなりの影響を与えてくると思います。現地の見聞、衝撃的だったこと、考えられないようなハプニング、大国ならではのシステム etc... 数え切れません。もし今後海外で知見を広げたいなら中国・韓国・東南アジアを強くお勧めします。時代の変化を、スピード感とともに身をもって体感できます。是非！

ここ 20 年ほどの間に驚異の成長を遂げて今や GDP 世界 2 位。あまりのスピードに街の整備が追いついていませんでした。いたるところでマンションが建設されていたり、生活排水がそのまま川に流れ込んだりしています。表向きの経済はものすごく発展しています。でも、国民一人一人の生活はまだ改善されていません。この矛盾した状態が発展途上の国ならではのどだと思います。そして、あと 2 年もすれば街の様子や経済の規模は全く違うものになっているでしょう。

今回の研修では様々なプログラムを毎日 15 時くらいまで学校側がスケジュールを組んでいます。そのひとつひとつの内容もとても濃いのですが、何よりも空いた時間で外に出かけて買い物をしたり街を散策できること、現地の中国人の学生・日本人の留学生との交流の中で知ることができる情報などを無限大に得られる可能性があることが一番の魅力だと思います。メディアでは伝えられない真実や事実と反することはたくさんあります。それを見たいと思うなら、疑問に思うなら、僕はお金をかけてでも一度現地に行ってみるべきだと思います。幸いにも学校のプログラムなので比較的安全です。世界中の人たちが様々な理由で中国に来ているので国際交流が進んでいます。今後グローバルに活躍するなら、世界に目を向けることは避けては通れません。若いうちに学んで、学ぶことによって感受性が豊かになり、感受性が豊かだから得られる経験も大きくなる。だから、次回参加しようと考えている学生がいるならば僕は全力で応援するし、いろんなところに出かけて、多くの人とコミュニケーションをとることをお勧めします。毎日が挑戦の連続、そして学びました。あなたもパワーアップすることを心より願っております。

[蘇州大学交流研修訪問団に参加して]

経営学部 2 回生 男子

私は、蘇州大学に 3 週間滞在する中で、交流会などを通じて中国の学生と多く触れあい、日本の学生と大きく異なる点が多数あると感じました。今回の交流研修訪問に参加して、その違いを実感することで、私は、蘇州大学の学生にたいして敬意を抱きました。その一番の違いは、日本の学生に対して、蘇州大学の学生は非常に自身の専門科目に対して、勤勉である点です。

第一に、例として、日本語学部の学生の日本語習得能力の高さがあげられます。2 回生・3 回生の学生の日本に対する知識量、会話レベルの高さには驚かされました。日本文学・和歌文化などに対する知識量では、日本の一般的学生をも超えていると思われます。この点からも自身の専門科目に対する興味の強さ・習得レベルは非常に高いと考えました。

第二に、蘇州大学は授業の終了時間が非常に遅いと感じられた。夜の 20 時頃に学舎の近くを通りかかっても授業は実施されており、出席している学生も非常に多かった。また、日頃より自習室において共同で学習する風景も見受けられ、共学の文化も強いと思われた。これは全寮制から派生する大学滞在時間の長さによるものであると考えられた。日本の場合は、寮制が普及していないため、授業の終了時間は比較的早く、日常的には自習室などを利用しての共同学習も少ない。このことも中国の学生の勤勉さを助長させているものだと考えられた。

第三に、日本で言うところのクラブやサークル、ボランティア・アルバイトに費やす時間は基本的に短く、また取り組む学生数も少ないと感じました。対して、勉学に費やす時間が多いことは、学生の発言・行動から強く読みとることができた。例えば、用事であげられるものは「テスト勉強、面接、課題」などが多かった。日本の大学生の場合は、意識の違いから、アルバイト・ボランティア・クラブ・サークルなどに費やす時間が多く、勉学に取り組む時間が減少している傾向が見られる。例えば、用事であげられるものは「バイト・部活・サークル」などが頻繁にあげられる。この違いにより、中国の学生は企画や管理については慣れていないように感じられた。中国と日本の学生のこの違いは、大学の考査制度によって発生しているものである。

結論として、中国の学生は日本の学生と比較して、非常に勤勉である。中国の学生は、専門科目に対する習熟度が高いため、独自の技術・教養を育てやすくなる反面、一般的な技術・教養が育ちにくいと考えられる。日本の学生は、専門科目に対する習熟度が弱いため、独自の技術・教養は育ちにくいと思われるが、一般的な技術・教養、例えば企画力や管理力などは育ちやすいと考えられる。これらの違いを生み出しているものは、大学の考査の頻度・全寮制から派生する大学滞在時間であると思われる。つまり、中国の学生の勤勉さは大学の制度により影響を受けているところが強いと考えられる。

第3回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部3回生 女子

この度は、中国語を勉強したり、日本ではできない体験をしてみたいという思いがあり、このプログラムに参加してみました。そして、蘇州に行ってみると、日本では経験できない体験をたくさんすることができました。「日本とは全然違う!」と驚くことも多かったです。

蘇州大学に着いて、私が最初に驚いたのは学校の広さです。学校の敷地内のあちこちにバスケットボールやサッカーなどのコートやグラウンドがあり、運動できるスペースが多く見られました。日本ではあまり運動はしなかったのですが、夜、時間があつたときは留学生宿舎のすぐそばにあつたグラウンドで少し走るようにしました。日本でも時間がある時はジョギングを少しでもしたいと思います。緑が多く、またベンチの設置も少なくなつたので、学校の敷地内を歩くだけで散歩が楽しめるような空間でした。夜になると、学校を含め、多くの場所がイルミネーションでライトアップされていたため、夕飯の後に時々していた夜の散歩も楽しむことができました。観光地も凄く綺麗でした。

次に驚いたことは、料理のバラエティが豊富なことです。専門ゼミの授業で中国の人はいろんなものを食べていることは知っていましたが、日本の中華料理のレストランでは見かけないメニューが沢山ありました。私は専門ゼミの授業で、中国の食文化を中心に調べているので、鄧先生の指導のもと、中国からの留学生やこのプログラムで出会つた中国の人たちの意見も参考にしながら、卒業論文に向けて知識を増やしたいです。

中国で初めて経験したことの1つに、中国書道があります。日本の書道とは少し筆の持ち方などが違い、書き順も日本と異なっているところもあつたので、日本と中国の書道では、似ている部分と違う部分があることが分かりました。日本と違い、中国書道のときは小筆がなかつたため、名前が書きにくかつたです。特に「崎」と「華」の画数が多く、そのため字が大きくなってしまつてバランスがとりにくかつたです。

中国にいる間、「没有（ありません）」という言葉が学校の食堂で料理がないというときに聞いたり、店でカードや細かいお金がないときに使つていたので一番よく覚えたように思います。中国語の授業は、褒めるときに「很好（とてもいい）」や「非常好（非常にいい）」という言葉が聞けていたので耳によく残っています。県大単独クラス最後の授業のときに歌の一部分を教えてもらったことはすごくいい思い出です。なんだか、中国では有名な曲だったみたいです。色々な国の人と話してつたので、一般の授業が終つた時はすごく名残惜しがつたです。



蘇州大学海外教育学院



金雞湖



金鷄湖で



上海にて

蘇州大学訪問団として中国で過ごした 20 日間。楽しく充実したあつという間の 20 日間でした。私が中国に興味を持つようになったきっかけは中国語を授業で専攻したことです。そこから中国という国に対して今まで持っていたイメージが本当の姿か自分の目で確かめたい！と思い今回の研修団に参加しました。

中国の上海空港についた初日からたくさんの驚くことがありました。蘇州まで向かうバスで同じような高層マンションが数多く建設されている光景には驚かされました。中国では、スーパーマーケットやマンション、大学、道路すべての規模が大きく、街を歩くたびに新しい発見がありワクワクしていました。上海の金融の中心を訪れた時は、人の多さや超高層ビルが立ち並ぶ姿に圧倒させられました。今の経済の中心に中国がいる、そしてこれから更に経済発達を遂げるであろうと思いました。しかし、その一方街中では、異臭がする場やお金を乞うている方がいたりしました。街の空気もまだまだ綺麗ではなく、喉が痛くなる時もありました。中国ではまだほんの一部の人びとがお金を握っており、貧富の差がまだ大きいとも感じました。

蘇州大学のキャンパスは本当に広く綺麗でした。なんと、私たちが生活をした留学生寮から授業をおこなう建物まで歩いて 20 分もかかりました。蘇州は綺麗な街でした。蘇州には伝統的な名所や旧跡が多くありました。拙政園、寒山寺、留園、虎丘どこも綺麗で中国らしさを満喫できました。私が一番好きなのは夜の景色でした。中国では家族と食後に散歩をする習慣があるそうです。夜公園にいくと、子供連れの家族で賑わっていました。地域のおばあちゃんたちで毎日集まって運動をしている光景も見られました。公園は綺麗に整備されライトアップされており、楽しく散歩することができました。

中国での大きな楽しみの一つに食事がありました。麻婆豆腐やワンタン、小籠包、ゴマ団子などの中華料理の定番メニューから、日本ではなかなか味わうことのできない牛蛙や鶏の脚、豚の脳みそなども挑戦できました。丸いテーブルで皆と雑談しながら、食事をするのが楽しかったです。

中国語の学習は、最初の 1 週間は兵庫県立大学の研修団のメンバーだけのクラスで、残りの 2 週間は他の留学生と混じってレベル分けされたクラスで学びました。中国語を教えてくださいました先生はとてもフレンドリーな方ばかりで、私たちに中国語で素晴らしいという意味の「非常好」とたくさん言ってくださいました。中国の授業は英語で教えてくださいました。留学生のクラスでは皆コミュニケーションは英語でします。私はうまく自分の言いたいことを英語で伝えることができず悪戦苦闘していました。英語をもっと話せるようになりたいと強く思いました。

今回の研修で中国に対するイメージが大きく変わりました。蘇州の人々は私達を温かく迎えてくださいました。蘇州大学の日本語学科の皆さんには本当にお世話になりました。食事に連れて行ってくださったり、買い物や屋台に一緒に行ったりとても親切にしてくだ

さいました。私が住んでいた寮のおばさんも愛想が良く、洗濯機やシャワーの使い方など中国語がわからない私に一生懸命教えてくださいました。蘇州大学の魏先生にも中国で困ったことがあったらすぐに相談にのってもらえました。本当にたくさんの人に協力してもらい充実した3週間を過ごすことができました。今回の研修でこれから自分が頑張りたいこと、学びたいことを知ることができたので、これからの大学生活に活かしていきたいです。

第3回蘇州大学交流研修訪問に参加して

看護学部編入3回生 女子

私は、看護師であり東洋医学に関心を持っているため、この研修に参加することにしました。街では漢方薬の老舗店がいつもみられましたが、現地の学生によると漢方薬は効果が緩やかであるために、最近では即効性の高い西洋の薬を愛用する人が多いとの話でした。また、訪問先の蘇州大学付属病院は癌患者の放射線治療が中国で最も有名な病院だそうで、先進医療の発達に力を入れているようでした。しかし、大学の授業では、養生法という日常的に摂取する自然食品（例えば、お茶やヒマワリの種などの乾物など）の効能について学ぶ授業があり、東洋医学が身近な印象がありました。

現在の中国では、医療現場では医師の活躍が中心であり、看護学への注目は高まっていないようで、看護師はサービス業の一環とみなされ、あくまでも医師の補助という価値観が強いということでした。実際に、現地の日本語学科の学生に看護学部を紹介した際にも関心のある学生は少なく、男性で看護学部を専攻している学生が存在することも驚かれています。したがって、看護はサービス業のみならず、療養中の患者およびその家族がよりよい生活を送るための手助けが可能だという価値観の普及のためにも看護学部の学生の中国訪問への関心をもっと高まることが望ましいと思いました。そのために、今後は病院見学などがプログラムに加わることも希望します。

健康に関わる生活習慣で印象的だったのは、夕食後に家族で散歩する習慣があるという点であり、遊歩道で会話をしながら散歩している家族の様子は微笑ましいものでした。また、大学敷地内のグラウンドには毎晩多くの学生がジョギングや筋力トレーニングをしており、バスケットボールをしている男子学生が多くみられました。その他にも、公園などの広場で年配の女性が10名前後集まって音楽に合わせて運動している様子や年配の男性指導者と太極拳を行っているグループもあり、運動習慣が身につけている人が多い印象がありました。その様子に影響を受け、私たち訪問団も夕食後にグラウンドでジョギングをする機会が増えました。また、太極拳の練習に参加した際は、中国語でのコミュニケーションがほとんど不可能でしたが、体を動かすことで交流することができ、楽しい時間を過ごすことができました。

それらをうけ、現在日本ではメタボリックシンドロームなど生活習慣病が健康問題に挙がっていますが、日本でも夕食後の散歩が習慣化すると罹患者数が減るのではないかと思います。また、自殺者数の増加の背景には精神疾患患者の増加や社会的孤立の問題があることから、運動を通して気分転換や他者との交流に繋がることを期待できるのではないかと考え、これらの運動習慣を身近な人と取り入れてみたいと思いました。

この度の中国訪問が初めてで知らないことが多く、言語も不自由が多かったのですが、今回の経験を受け、中国と日本の文化や習慣の違いをもっと知りたいと感じました。また、医療、特に看護の現場をよりよく知り、看護職の可能性を広めるためにも、さらに中国語を勉強して、再度中国を訪問したいと思いました。